

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校第1学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	書く能力、読む能力、聞く能力、話す能力、ともに低いと感じる。授業の復習や家庭学習の習慣があまりついておらず、学習に取り組む意欲が低い生徒も多い。しかし、指示されたことには素直に従い、真面目に取り組む生徒が多いので、国語の学習に取り組む必要性を理解させることが大切である。	意欲的に学習活動に取り組む姿勢をもたせるために、一人ひとりの学力や課題を把握し、個別に声をかけていく必要がある。意味調べ、漢字練習などを家庭学習で充実させ、語彙力を高める。また、それらを基に心情や考えを読み取る課題を十分に設定する。	少しずつではあるが、毎回の漢字テストや定期考査に向けて、努力する姿勢が見られるようになってきた。今後も、意欲的に学習に取り組む姿勢をもたせるよう授業を工夫し、個別にも声かけをしていく。
数学	定期テストや小テスト等による基礎学力が不足していて、集中力に欠ける生徒がいる。また、2学期になって、家庭学習に力を入れ、意欲的に取り組む生徒も増えてきました。計算や文章を読み取り式に表すこと、グラフで考える力など苦手としている生徒がいますので、取り組む必要がある。	授業の始めに、小テストを行いながら復習問題に取り組ませている。繰り返し取り組む中で、理解度や集中力が高まってきた。ワークなどの基礎から応用問題を授業や家庭学習で取り組ませる。	復習しながら基礎的な知識を反復練習し定着するよう取り組んできた。発展的な内容に興味を示す生徒が増えてきた。これからも主体的に興味関心を深めながら取り組ませていきたい。
社会	提出物、授業道具忘れなど、学習に向かう基本姿勢が習慣づけられていない生徒が多くみられる。特に、話を聞いて考える訓練の不足が感じられる。また、時事問題についても関心の高い生徒も少なく、総体的に見た基礎学力の欠如が感じられる。	まず関心を持たせるために、時事問題を適宜織り込みながら授業を進める。また、単元ごとにワークや小テストを行うことによる復習を行い、既習事項の定着を図る。	基本的な学習に向かう姿勢は少しずつ育ってきていると思われる。提出物もかなり習慣づいてきたが、学習内容の定着が今一つであった。単元末のワークの課題を宿題形式にせず、授業時間の中で行えるようにすること、小テストで積み上げてゆく必要がある。
理科	意欲をもってとくむ生徒が多い反面、ノートがとれなかったり、授業に集中できない生徒が一定数いる。発言も決まった生徒が多くなる。また、ワークシートへの記入に時間がかかる生徒が多く、実験や観察の説明についての理解が遅い。また、家庭学習では繰り返しの学習が出来ていない生徒が多い。	授業中のメリハリをつける。具体的には、話を聞く場面と作業を通して考える場面、意見を発表する場面の切り替えを意識させる。また基本的な既習事項の確認を行い、計算や作図、語句の定着を図る。	・授業への取り組みはほとんどの生徒がしっかりできているが、一部生徒に全体指導では理解できない事例を個別に指導していくにはどうしたらよいかという課題が残った。 ・ワークなど取り組むが、取り組んだ内容が定着していない生徒が多く、課題の出し方に課題がある。
音楽	音楽に対する意欲・関心、積極性にかなりのばらつきがある。得意な生徒、苦手意識がある生徒は意欲の無さが顕著で、授業に取り組む姿勢などで指導を行う、という悪循環を生んでしまっている。音楽に対して意欲が高い生徒はこの状態をもどかしがっている様子である。	生徒指導的なアプローチではなく、音楽の楽しさを理解させ、授業参加を促すアプローチをとっていきたい。知識・技能面の指導のポイントを最小限に抑え、表現活動の時間を最大限とり、体験的に理解させていく。また、小集団での発表の機会を多くとり、音楽が得意な生徒が苦手な生徒に教え合う場を多く設定していきたい。	器楽分野で大きく成長した。合奏にも意欲的に参加した。鑑賞分野では例年の倍近くの時数を取らざるを得なかった。少し疲れが見えたように感じる。時数の割に文章での表現力を伸ばし切ることができなかったのも反省点である。歌唱分野では全く歌わない、歌えない生徒が歌うようになるなど、環境作りはできたように思う。
美術	落ち着いた授業を行うことができ、意欲や関心についても高い生徒が多い。しかし、表現の技能については拙い面がある生徒が一定数いる。発想や構想についても、案を練り切れない生徒が見られる。鑑賞についても、言語表現の向上が課題である。	1時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、全体指導に加え、個別指導を充実させる。発想力を高めるために、クロッキー帳を活用して、アイデアスケッチを繰り返させる。鑑賞タイムを設け、言語活動を取り入れることで、言葉で心情を表す力を高めたい。	概ね目標を達成することが出来た。鑑賞タイムは意図的、計画的に取り入れることができ、授業の活動の中でも定着した。個別指導については、もう少し時間をかけたい。
保健体育	運動が得意な生徒と得意な生徒の大きな2極化が見られる。基礎的な体力、運動能力もまだ開発されていない生徒が多い。自ら体を動かす習慣を身につけさせ、その運動の特性を生かしながら、スキルや体力の向上を目指していく必要がある。集団での指示よりも個々の指示を期待する傾向がある。集団の中で切磋琢磨していく活動を課題とした。	毎回の授業で、継続走や補強運動を取り入れ、基礎体力の向上に努めていく。具体的な個人内目標を掲げて指導していくとともに、グループ内での学び合いの場を作り、主体的に活動できるように指導していく。また、集団を意識させる連帯責任の導入や言葉での指示で動けるよう、繰り返しの指導を行い、集団行動の基礎を徹底させていく。	コロナ禍で指導に制約がある中、工夫しながら体力の向上に努めることができた。集団行動、授業規律の面では年度当初感染予防の観点から配慮をしていたため時間を要したが、中学生として順調に成長してきている。
技術・家庭	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、興味・関心を持たせる教材を準備し、意欲的に学習に取り組む姿勢を持たせるとともに、作業の安全を意識させる必要がある。 食品について関心を持ち、食事の役割や健康とのかかわりについて理解している。どんな食材にどのような栄養があるか生鮮食品や加工食品の知識など、実際に食品を選ぶときの知識を学習する段階にきている。	課題を明示して、興味・関心・意欲を持たせる指導を工夫し、実習を通して、基礎的・基本的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。 食品の選択や調理のしかたと資源や環境とのかかわりや地域の食文化など、身近なものから興味を持たせ、理解させるとともに、授業の取り組みなども指導していく。	製作実習を通して目標とする内容を学習できた。ペンスタンド製作では情報機器を活用し振り返りを行うことでその内容をより深めることができた。目標を概ね目標は達成することができたが、今年は、学校での調理実習が難しく、課題として実施させざるを得なかったが、意欲的に取り組んでいた。次年度につなげていきたい。
外国語(英語)	教科に対する興味が強い生徒が多く、全体的に意欲的に授業に取り組んでいる。また、小学校から外国語活動に親しんできた効果もあり、コミュニケーション活動には積極的に参加でき、スムーズである。半面、中学校から本格的に始まった「書くこと」に対しては、音と文字がまだ結びついておらず、難しいと感じているためなかなか前向きに学習に取り組めない生徒がいる。	日頃から「書くこと」だけでなく、言語活動を通して、表現する頻度を増やす。まずは文字と音を一致させ、しっかりと音読ができるように指導し、段階に応じて単語、文と次第に書ける量を増やしていく。教師作成のプリントを活用して、コミュニケーション活動を増やし、まず話し、そして実際に話したことを書く、という活動を増やす。	表現活動を増やした成果として、授業に対して前向きに取り組む生徒が増えた。また、スペリングコンテストなどを通して、英語に苦手意識を持つ生徒でも満点を取るなど、自己肯定感に獲得につながったと思う。これからも言語活動を中心として活発な英語の授業をすすめていく。
総合	今年度はコロナの影響で、現段階では総合の時間があまりとれていないが、キャリア教育を中心に取り組んでいる。身近なところから「働くということ」について考え、「職業」について調べ、将来の夢や希望について考えているが、普段から考えている生徒とそうでない生徒の差がある。	図書やインターネットなどを使い、多方面にわたって、考えさせる。また、外部の講師の方に依頼して「講演」をしていただき、それを通していろいろな角度から見て、「聞いて」「考える」ことを促す。	「職業」や「働くということ」について図書やパソコンを使って調べ学習を行い、発表することができた。これからもテーマ学習を通じてスキルを高めていきたい。
道徳	クラスの中で意見を言える生徒もいれば、なかなか言えない生徒もいる。道徳の時間で考えたことを普段の生活にどう生かすかが課題である。	身近な課題や問題に近い教材を通して、考え、意見交換をしながら考えをより深めていく。道徳の時間を使って、なるべく考えを深めていながら、判断力を高めたり、成長させていきたい。そのためにも、普段の行動で振り返ることができるような学習活動を意識させる。	教科書の教材を通じて進めてきた。意見交換をしながらさらに深めながら議論する道徳の授業を目指していきたい。